

『侵襲的治療を受ける患者の看護』 研修会実施報告

日時 : 令和3年9月11日(土) 8:30~17:15

対象者 : ラダーⅡ~Ⅲを目指す者

参加者数 : 34名

目標 : 術前・(術中)・術後における基礎的な知識を習得し看護実践に活用することができる

<講師の紹介>

集中ケア認定看護師

2A病棟 主査

特定看護師

手術室 主査



<内容>



当院の集中ケア認定看護師と特定看護師に講義をして頂きました。まず周術期に必要なものとして「①人為的な急変を起こさない②当たり前のことを当たり前にする③危険を予測する」の説明があり、本研修で学ぶべき内容の意識づけとなりました。午前中は「侵襲と生体反応」「検査データの読み取り方」「シリンジポンプの正しい使い方」の講義でした。研修生からは、急変を起こさない看護とは何かを基礎から学ぶことができたという意見がありました。午後からは「麻酔方法に合わせた観察ポイント」「鎮痛・鎮静の管理」「せん妄」「体温管理」など、術後の看護にすぐに活用できる内容をわかりやすく説明して頂きました。全身麻酔による弊害については、事前にリスク因子を知っておくことで合併症を回避できることや、合併症を起こしたとしても重症化しないよう看護することが大事であることを学びました。研修生からは、リスク因子に基づいて、手術後の環境を整えることを考慮したいという意見がありました。今回の研修で学んだことを看護実践に活用できることを期待しています。